

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

第25回日本教育工学会全国大会の御礼

日本教育工学会 副会長 永岡慶三（早稲田大学）

今年からシルバーウィークという言葉ができて5連休、この絶好の行楽シーズンに教育工学研究者・実践者たちは脇目もふらず、東京の真ん中にある東京大学本郷キャンパスに集ったのではありません。しかしながら会場を覆っていたのは、晴天の下、屋内に閉じこもった陰々滅々たる引きこもりの雰囲気ではなく、教育工学の現状と今後を語りあう熱気に満ちた活発な討議・討論でした。そう感じたのは私だけでは決してないはずで

広い分野の若い研究者・実践者が多く参集して、新しい考え方にふれ、教育工学の世代交代／政権交代の躍動さえ覚える楽しさでした。それはメインシンポジウムの「変革をささえる教育工学」に象徴されます。挨拶が苦手と言う（実は好き）永野会長が、懇親会の挨拶で「学会創設以来、25年間突っ走ってきた。ここらで立ち止まって自らの立場を思い直してみるのも一興」と指摘していました。

この雰囲気の醸成に寄与して大きかったのは、いまだ青年然とした面持ちの山内大会実行委員長をはじめ、今回の東大スタッフを中心とする実行委員会の方々皆が皆若かったことが理由の一つだと思います。皆、自ら動いていました。「こんなこと言っているのかな？」的躊躇の雰囲気を醸し出す大御所が居並ぶのではなく、若手も伸び伸び発言できる大会であったと思います。これからの社会に重要な貢献をする使命を持つ本学会にとってはこの状況こそが何よりの宝です。

実行委員会には、きっと参加者からは見えないご苦勞も多かったこととありますが、参加者が発表と討論のみに集中できる（たとえば案内が行き届いていて会場探しにとまどう心的負担を軽減していた）安全・安心な大会運営が実現されていたことに深く感謝致します。またCD論文集を一段と使いやすくした東原委員長をはじめとする大会企画委員会の方々にも御礼申し上げます。

本号目次

第25回全国大会の御礼	1	ショートレター増刊号のご案内（第一報）	8
夏の合宿研究会報告	2	理事会議事録	9
冬の合宿研究会のご案内（第二報）	3	新ロゴ募集	10
研究会の開催案内／発表募集	4	研究奨励賞の推薦依頼	11
論文誌特集号のご案内（第四報）	7	新入会員／学会日誌等	11

「2009年度 夏の合宿研究会 in 和歌山」のご報告

去る8月22日（土）、23日（日）の両日、2009年度夏の合宿研究会が和歌山大学教育学部附属教育実践総合センターにて実施され、会場定員を満了す55名が参加した。

初日は、木原俊行企画委員会委員長（大阪教育大学）の開会挨拶のあと、永野和男会長（聖心女子大学）より、「教育の情報化のねらいと情報教育」という演題で基調講演が行われた。まず、『教育の情報化に関する手引』（文科省2009）において、(1)情報教育の推進と(2)教科指導におけるICT活用との関連性が、現時点では必ずしも明確になっていないことが指摘され、今後それぞれの目的や評価をいっそう明確にしていく必要性が示された。また、ICTの授業への導入に際して、子どもたちの思考を促す学習のデザインが不可欠であることも併せて指摘された。更に、新学習指導要領の特徴として、情報教育の目標が各教科の目標の中に組み込まれている点を取り上げられた。



その後のワークショップでは、木原氏のコーディネートのもとで、野中陽一氏（横浜国立大学）が、これまでの「教育の情報化」の経過をおさえつつ、『教育の情報化に関する手引』の第3章「教科指導におけるICT活用」のポイントを解説した。なお、この場では、和歌山大学教育学部附属小学校の教員2名によって、「教科の授業でICTを効果的に活用している事例」を実演するといった試みもなされた。

その後、参加者は、9つの班に分かれ、「教科の目標を達成することと併せて、児童・生徒の情報活用能力の育成を図る」ための単元構成の工夫について検討した。そして、いくつかのグループが、その成果を報告した。

2日目は、内垣戸貴之氏（福山大学）の司会により、細見隆昭氏（兵庫教育大学大学院学校教育研究科・内地留学中）、島田佳幸氏（尼崎市立成文小学校）、山中昭岳氏（和歌山大学教育学部附属小学校）、宮田仁氏（滋賀大学）を登壇者に迎え、「情報モラル授業実践」をテーマにして、パネルディスカッションを行った。まず、細見氏は、情報モラル教材の変遷やそれらを使った授業実践・模擬授業を核にした教員研修の実施方法について、報告した。次に島田氏に、日常的な学習活動の中で情報モラル教育をおこなう数々のアイデアや自作教材、その学習効果等について、紹介してもらった。山中氏は、学級ブログを使って、子どもたちが保護者や地域住民に向けて情報発信をする活動を通じて、彼らに情報モラルを学ばせる実践について報告した。最後に宮田氏は、学校裏サイトやプロフなどを例にとりながら、保護者や教員がそれらの現状を十分には認識していないことの問題点を取り上げた。

宮田氏やフロアからは、継続的に教員研修を続けていくための手だて、情報モラル教育の普及のための教材や体制等の整備、地域住民や保護者との連携の見通し、初等教育から中等教育へという体系的な教育体制等について、質疑が出され、活発な意見交換がなされた。

その後、永野和男会長から2日間の取り組みに関する総括講演がなされ、木原俊行企画委員会委員長の閉会挨拶により2日間の日程を終了した。



両日を通じて地元和歌山・大阪を中心とした教育現場の方々が多数参加し、夏の合宿研究会の趣旨である「教育現場を対象とした実践的な内容での研究会」として成功を収めることができたといえるだろう。これは、多くの講師陣やスタッフ、そして広域から意欲的に参加いただいた学会員の皆様に支えられた結果であったことは間違いない。関係の皆様改めて感謝する次第である。

文責：豊田充崇（和歌山大学）

なお、当報告は島田希氏（信州大学）、内垣戸貴之氏（福山大学）にも協力を得て作成した。

2009年度 冬の合宿研究会のご案内（第二報）

■テーマ：教育現場とつくる実践研究のデザイン

新学習指導要領，言語活動の充実，教育の情報化，情報モラル，学校組織のマネジメント，学社連携など，教育現場をめぐる課題は，めまぐるしく変わりながら，かつ多方面に渡って山積しています。

これまで教育工学は，幅広く，教育実践における問題解決を志向する分野としてその成果を蓄積してきました。新しい指導法やテクノロジーの導入とそれらの効果検証，教師の力量形成，授業設計の方法論，現代的な教育課題への対応方法などが挙げられるでしょう。しかしながら，それにも関わらず，多忙な教育現場と研究者の間で継続的かつ密接な関係を築いて，実践研究を推進していくことは容易ではありません。

そこで本合宿研究会では，特に教育現場との密なコラボレーションのもとに研究を展開されている講師を招聘し，教育工学における実践研究のデザインやその方法を考えます。さらに学校，社会教育の現場の実践者と語り合う中で，実践研究をデザインし，実施していく際の問題点や教育現場が研究者に期待していることを共通理解し，実践研究の新しいテーマや方法の開拓を目指します。

■期日：2010年2月27日(土)14時～28日(日)12時

■会場：かんぽの宿 松島（宮城県東松島市野蒜字南赤崎89-53）

<http://www.kanponoyado.japanpost.jp/yado/matsushima/>

・車でお越しの場合

東北自動車道大和ICから松島経由で約30km（約50分），または仙台南ICから三陸自動車道鳴瀬奥松島IC経由で約50km（約50分）

・電車でお越しの場合

JR仙石線野蒜駅から約1km（徒歩約15分または車で約3分）

■対象・定員：学校教育・社会教育に関わる研究者及び実践者，学会関係者（40名程度 定員に達し次第締め切り）

■参加費：15,000円（予定，参加費・宿泊と2食分の食事代を含みます。内訳は近日中にご案内します）

■申し込み方法：JSETホームページの企画委員会ページより，申し込みフォームをご利用下さい。

■開催担当・問い合わせ先：稲垣 忠（東北学院大学教養学部）

メール：100227jset@ina-lab.net 電話：022-375-1180（東北学院大学教育学準備室）

■プログラム（予定）

（1日目）

14:00 開会（13:30 受付開始）

14:10～15:00 基調講演「現代の教育課題と教育工学研究のデザイン」（日本女子大学 吉崎静夫教授）

15:15～16:00 実践研究の方法論の検討

※4つ程度のトピックを立てて研究者からの研究事例紹介と短時間の質疑を行います。

16:00～18:00 ワークショップ1

※さまざまな教育現場からの話題提供をもとに教育工学としての研究テーマ，検証方法をグループに分かれて討議します。

18:00～18:30 中間報告（ワークショップ1の成果報告）

（2日目）

09:00～09:30 ワークショップ2

※1日目の議論をもとに研究の骨子，期待できる成果をまとめて報告します。

09:30～10:45 発表（1グループ発表5分＋質疑5分程度）

11:00～11:55 パネルディスカッション

※2日間の討議を振り返り，実践研究として今求められること，有効な方法論，教育現場との関わり方等について討議します。

12:00 閉会

研究会の開催

研究会
2009

テーマ ICT活用の授業研究と教師教育／一般

- 日 時：2009年10月24日(土)
- 会 場：信州大学(教育学部 西校舎5階 W505教室・W506教室)
(〒380-8544 長野市西長野6-10)
- 担 当：谷塚光典 (yatsuka@shinshu-u.ac.jp)

プログラム

発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)

9:55-10:00 諸連絡

10:00-12:05 午前の部

A会場 (W506教室)

- A1) 小中学校の普通教室における複数のICT機器の組み合わせによる大型提示装置の活用実践とその効果に関する分析
佐藤弘毅(名古屋大学), 堀田博史(園田学園女子大学), 藤谷哲(目白大学),
成瀬啓(栗原市立大岡小学校), 稲垣忠(東北学院大学), 井口磯夫(十文字学園女子大学),
佐藤喜信(株式会社内田洋行), 山田智之(株式会社内田洋行)
- A2) デジタルテレビを活用した授業者の教育効果への期待感とICT活用指導力の比較検討
山本朋弘(熊本県立教育センター), 中川一史(放送大学), 清水康敬(東京工業大学)
- A3) 幼児を対象とした行動観察による高画質効果に関する検討
清水康敬(東京工業大学), 高比良美詠子(中部大学), 高津直己(元 東京情報大学),
新井健一(ベネッセコーポレーション)
- A4) ブレンド型大学授業における授業形態の好みと成績との関連
富永敦子(早稲田大学大学院), 向後千春(早稲田大学)
- A5) 遠隔同時学習における空間共有感の増大
佐々木真理(京都教育大学)

B会場 (W505教室)

- B1) moodleとコラボの森の差異性に関する研究
柏木肇(電気通信大学大学院)
- B2) 気づきの誘発をねらったT2V(Text-To-Vision)による文章表現法学習
竹内純人・又平恵美子・稲積宏誠(青山学院大学)
- B3) 日本人のキーボード入力と手書きによる記憶効果の脳科学的検証
菅原朋美(東京電機大学大学院), 王力群・佐野香(東京電機大学),
小林浩(東京電機大学大学院)
- B4) 試験問題に登場する励ましの言葉をかけるキャラクター画像が受験者に及ぼす影響に関する検討
加藤尚吾(東京女子大学/教育テスト研究センター),
加藤由樹(東京福祉大学/教育テスト研究センター),
赤堀侃司(白鷗大学/教育テスト研究センター)
- B5) アノテーションの有無が単純な試験に与える影響に関する研究
柳沢昌義(東洋英和女学院大学/教育テスト研究センター)

13:05-13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10-14:40 午後の部第一部

A会場 (W506教室)

- A6) 学校組織による学力向上の取組における授業研究の方法とICTの活用
小柳和喜雄 (奈良教育大学大学院)
- A7) デジタルコンテンツを活用した授業の知識の活用の分類
野口聡 (関西大学大学院), 斎藤麻貴 (関西大学), 泰山裕 (関西大学大学院),
黒上晴夫 (関西大学)
- A8) 教員養成における初年次教育の学習内容に関する検討
船戸健司 (岐阜大学大学院), 今井亜湖 (岐阜大学)
- A9) 大学初年次物理系教育のためのハイブリッド型e-Learningコンテンツの開発
田中忠芳 (松本歯科大学), 鍵山茂徳 (鹿児島大学), 江尻有郷 (元 琉球大学),
並木雅俊 (高千穂大学), 大島和成・増田裕次 (松本歯科大学)

B会場 (W505教室)

- B6) 教員養成のための「プログラムと計測・制御」学習の試行
今井亜湖 (岐阜大学)
- B7) 科学的推論を促す恐竜ぬり絵とミクストリアリティ体験による学習プログラム
三島侑子 (筑波大学大学院), 有田寛之・真鍋真 (国立科学博物館), 近藤智嗣 (放送大学)
- B8) ソフトウェア開発におけるコラボレーションの心理学 ―先行研究はあるのか―
柏木肇 (電気通信大学大学院)
- B9) マンガによる歴史学習の学習効果に関する研究
周村諭里・三津井那央・柳沢昌義 (東洋英和女学院大学)

14:55-16:35 午後の部第二部

A会場 (W506教室)

- A10) 教育の情報化に対応した教員研修システムの開発
―教員のICT活用指導力向上のための形成的な評価方法の開発と実用化―
原克彦 (目白大学), 伊藤剛和 (奈良教育大学),
宮原克彦・川上泰雄 (教育情報化推進協議会)
- A11) 初年次教育における教員集団の形成
村上正行 (京都外国語大学)
- A12) 授業ビデオに対するアノテーションを活用したリフレクションの支援による教育実習改善の試み
後藤康志・西原康行 (新潟医療福祉大学)
- A13) 授業研究・授業分析を支援する授業観察システムの検討
―TV会議システムによる授業観察実験を通して―
篠島祐貴 (富山大学大学院), 黒田卓 (富山大学)

●参加費用：参加費は無料です。

研究会報告集の年間予約購読代金 (3,500円) を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。

●交通案内：なるべく公共交通機関をご利用下さい。自家用車の方は事前にご連絡下さい。

【JR長野駅から】善光寺口を出て川中島バス1番のりばから乗車 (約10分), 「大門南」バス停で下車して進行方向にある「大門」交差点を左折し、徒歩約5分直進して右側です。

詳しくは、信州大学教育学部Webサイトの「交通・キャンパスマップ」をご参照下さい。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/>

●お知らせ：受付は、教育学部 西校舎5階W503教室です。

昼食は、ご持参されるか、善光寺周辺の飲食店をご利用下さい。
生協食堂及び購買は土曜閉店です。

研究会の発表募集

テーマ： FDの組織化・大学の組織改革／一般

●日 時：2009年12月19日（土）

●会 場：京都外国語大学（担当：村上正行）

●申込締切：2009年10月19日（月）

●原稿提出：2009年11月19日（木）

●募集内容：2008年度からFDが義務化され、大学における授業改善の取り組みのみならず、大学内におけるFDの組織化や、大学同士が連携したFDネットワークの構築などが行われつつあります。また、社会の変化の中で、大学の組織そのものの改革も重要となってきました。そこで、本研究会では、大学におけるFDの組織化や大学内外のFDネットワークの構築・運営、大学組織の改革に関する実践の結果や途中経過について、取り組んでおられる方々の発表を募り、議論や情報共有を行いたいと考えております。また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法：研究会Webページよりお申し込み下さい。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出：原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してお申し込み下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、キャンセルとさせていただきます。

今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ（予定を含む）	開催場所
2010年03月06日	教育実践を指向した学習支援システム／一般	広島大学
2010年05月15日	情報モラル教育・ネットいじめ対策／一般	北教大旭川校

発表申込締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

----- キリトリ線 -----

第25回 研究奨励賞候補者推薦用紙

候補者氏名	講演番号	推薦者

日本教育工学会

Tel/Fax: 03-5740-9505

E-mail: office@jset.gr.jp

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「学習・教育支援のための技術開発論文特集」のご案内（第四報）

現在、学習・教育支援システムの開発研究では、多様化する情報通信技術を基盤とした新たな学習・教育支援の模索、及びWebテクノロジー、データマイニングなどの新しいソフトウェア技術を取り入れた質の高い学習・教育支援の実現が試みられています。また、新しい技術開発だけでなく、既存の要素技術を見直し、新しい活用方法を見出すことも盛んに行われています。今後、こうした幅広いアプローチのもと、有用なシステムが数多く生み出されてくることが期待されます。そこで、本論文特集号では、学習・教育支援のための技術開発に焦点を当てた様々な視点からのシステム開発論文を中心に広く募集します。

1. 対象分野

- (1) 新しい学習・教育支援技術の設計・開発（Webテクノロジー、データマイニングなどの利用）
- (2) 学習・教育支援のための既存要素技術の新しい組み合わせや新しい活用
- (3) 学習・教育支援システムのためのユーザインタフェース構築（認知的アプローチも含む）
- (4) 学習・教育支援システム評価技術
- (5) 学習・教育支援システム運用技術（LMS、学習者認証、ポートフォリオ、インフラなど）
- (6) 学習・教育の質向上を目的とした要素技術・システムの開発
- (7) その他、学習・教育支援技術開発に関する研究

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程は通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させ、「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。

なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

3. 論文投稿締め切り日（2010年11月発行予定）

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月 8日(月)

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2010年2月15日(月)

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けません。

5. 問い合わせ先

電子メール：tokushu2010@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

6. 特集号編集委員会

委員長：柏原昭博（電気通信大学）

副委員長：渡辺健次（佐賀大学）

幹事：松浦健二（徳島大学）、

長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）

委員：伊東幸宏（静岡大学）、

植野真臣（電気通信大学）、加藤泰久（NTT）、

国近秀信（九州工業大学）、

小尻智子（名古屋大学）、小西達裕（静岡大学）、

佐々木整（拓殖大学）、

竹内章（九州工業大学）、仲林清（放送大学）、

林敏浩（香川大学）、

林雄介（大阪大学）、東原義訓（信州大学）、

平嶋宗（広島大学）、

松田憲幸（和歌山大学）、松原行宏（広島市立大学）、

宮田仁（滋賀大学）、

宮寺庸造（東京学芸大学）、室田真男（東京工業大学）、

吉川厚（教育測定研究所）、

渡辺博芳（帝京大学）

ショートレター増刊号論文募集のご案内（第一報）

日本教育工学会論文誌 vol. 34, Suppl. の発行

論文受付締切：2010年4月1日（木） 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌vol. 34, Suppl. は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規程及び原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。ショートレターの採録条件は、Vol. 27より以下になりましたのでご注意ください。（詳細は、JET117号参照）

1. ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守です。（4ページを超えるものは採録しない）
2. ショートレターでは、筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続き及び会費納入等を行うことが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年1偏に限り投稿できます。
3. 2010年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・教育システム開発など
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけて下さい。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(2010年度)：

- 4月中 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 増刊号発行予定

論文投稿の仕方：

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい。投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています。

問い合わせ先：

電子メール：short@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

第13期第3回理事会議事録

日時：2009年09月12日(土)14:40～16:20

場所：キャンパス・イノベーションセンター 7階 708号室

出席：永野和男会長，山西潤一副会長，赤倉貴子，大久保昇，小柳和喜雄，澤本和子，清水康敬，東原義訓，前迫孝憲，宮田 仁，村川雅弘，室田真男，山内祐平，吉崎静夫

1. 第13期第2回理事会議事録を承認した。
2. 会員の移動について承認した。（会員総数2624名）
3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
清水編集長より，順調に編集が進んでいる旨の報告があった。
 - (2) 研究会委員会
小柳委員長より研究会の開催状況のほか下記報告があった。
 - 1) 大会同様，1回の研究会における筆頭発表者は1つに制限する方向で検討する。
 - 2) 研究会における企業展示について認める方向とし，課題についてさらに検討する。
 - (3) 企画委員会
宮田副委員長より下記報告及び要請があった。
 - 1) 夏の合宿研究会（2009年8月22日・23日）の報告。（参加者：55名）
 - 2) 冬の合宿研究会（2010年2月27日，28日）への参加の要請。
 - 3) 産学協同セミナー日程の第1候補（2010年3月19日）について報告。
また，企画委員会内にWGを発足させ，今後の合宿研究会のあり方について検討する予定。
 - (4) 大会企画委員会
東原大会企画委員長より次週（9月19日より）の全国大会について報告および要請があった。
 - 1) 発表件数（全473件）。
 - 2) 企業展示への参加の状況。
 - 3) 論文集のCD-ROM化の特長。
 - 4) 当日会場でのインフルエンザ対策。
 - (5) 国際交流
山西副会長より「第3回日中教育工学研究交流フォーラム（長春市：東北師範大学）」（8月6日～8日）について，会長より「第8回中国教育技術国際フォーラム（徐州師範大学）」（8月17・18日）について報告があった。
 - (6) 広報委員会
JSETニューズレター168・169号台割案について説明があり，承認された。
 - (7) 事務・統括
 - 1) 山西副会長より25周年記念事業学会のロゴ作成についての募集要項案の原案が示された。若干の修正を行い，大会で発表，Webで公募することになった。
 - 2) 会長より，今後の理事会の会議室の予約方法に変更，出席・交通費申請システムについて若干の改修予定，その他の報告があった。

以上

日本教育工学会のロゴ募集について

日本教育工学会では発足25周年を記念して学会ロゴを制作するため、そのデザインを公募することになりました。奮ってご応募下さい。

募 集 要 項

目 的： 教育工学の理念・目標・特色などを表現した、日本教育工学会にふさわしいロゴマークを制定し、今後の学会活動（Web、大会のポスター、封筒、その他の印刷物のマーク）などに使用します。なお、シンプルで親しみやすく、力強い作品を求めます。

主 催： 日本教育工学会

公募内容： 日本教育工学会（JSET）のロゴマークの基本デザイン、ラフスケッチ

公募期限： 2010年1月31日（日） 必着

応募資格： 学会員のみならず、どなたでも応募できます。

応募要領：

- ① 学会ホームページにある「ロゴマーク応募用紙」に必要事項を記入の上、基本デザイン、ラフスケッチ（以後、作品と表現します）とともに下記に提出して下さい。
- ② 応募にあたり点数に制限はありません。
- ③ 応募にあたって要する経費は、応募者の負担となります。
- ④ 応募作品は、返却しません。

作成要領：

- ① ロゴマークの原案となる「基本デザイン」又は「ラフスケッチ」とし、Windows又はMacintoshパソコンで閲覧可能なデータ及びPDFファイルで提出して下さい。送付方法は、郵送又は電子メールへの添付での送付とします。
- ② 色は、カラー（印刷物を配慮して、数色の組み合わせ）または単色とします。カラーにより提出する場合は、カラーのものと単色のものを提出して下さい。カラーの作品を単色で印刷することがあります。
- ③ 縦書き、横書きを使い分ける必要がある場合は、縦書き、横書き両方のデザインも提出して下さい。

採用作品の著作権・商標・意匠： 作品の著作権・商標・意匠に関して以下の条件があります。

- ① 未発表の基本デザインあるいはラフスケッチに限ります。また、作品の中に第三者が著作権等の権利を有している著作物等を利用していないこととします。
- ② 最優秀作品として入賞し、学会のロゴとして採用した作品の著作権・商標・意匠に関し、応募者は以下のことを認めることとします。
 - ・採用作品のロゴ、学会が改変したロゴ、あるいは作品を元に作成したロゴの著作権は学会に移転し、学会の封筒、論文誌、ニューズレター、全国大会の論文集やポスター、学会のホームページ等、学会が必要と認めたと所に利用します。
 - ・学会が作品を加工した二次的著作物に関する著作権も学会が有することとします。
 - ・学会が決定したロゴの商標・意匠の出願・登録をする権利を学会が有することを認めることとします。
 - ・最優秀作品の著作者人格権を応募者は行使しないものとします。
- ③ 採用されなかった作品の著作権は学会に移転しませんが、応募事業の紹介や記録のために学会が利用することがあります。

選 考： 日本教育工学会「ロゴ選考委員会」で選考します。

発 表： 2010年3月中旬に発表します。なお、入賞作品の応募者に直接連絡するほか、本学会ホームページやニューズレターに採用した応募者の作品を含めて結果を掲載します。

表 彰： 最優秀作品1点及び佳作作品2点に表彰状を贈呈し、最優秀作品（採用作品）には、謝礼として20万円を贈呈します。

備 考： 日本教育工学会の活動に関しては、ホームページをご参照下さい。

<http://www.jset.gr.jp/>

応募・問い合わせ先： 日本教育工学会 事務局「ロゴ選考委員会」

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

e-mail:office@jset.gr.jp TEL/FAX: 03-5740-9505

研究奨励賞候補者をご推薦下さい

第25回全国大会（東京大学）の研究発表者の中から、研究奨励賞の候補者を下記の要領でご推薦下さい。

発表をお聞きになっていない場合でも、論文集をご参考にお願い申し上げます。

選考の基準

1. 選考対象者は、本学会の会員であって、受賞時に40歳を越えていないこと。ただし、本学会入会時から5年を経過していない場合は考慮する。
2. 選考時点から遡って最後の年次大会での正式の研究発表登壇者であること。
3. 既に研究奨励賞を受賞している者でないこと。
4. 対象者の過去の研究業績を尊重すること。

注：研究奨励賞（1985年10月31日 理事会申し合わせ）

「研究奨励賞は、教育工学および関連領域に関する学問の奨励のため、有為と認められる新進の研究者に贈呈する。この奨励賞を受ける者は、本学会会員であり且つ研究大会において講演を行った中から、優秀な論文を発表した者から選定する。」

なお、理事・評議員・大会役員・座長担当者の方は率先してご推薦下さいますようお願い申し上げます。

★締め切りは、12月31日（木）とさせていただきます。

（推薦用紙は、6頁に掲載しております）

新入会員（2009年7月7日～2009年9月7日）

■正会員 39名

塩澤 真季
渡辺 哲司（九州大学）
麻生 和彦（東京大学大学院）
若林 昌子（知的財産教育協会）
四田 篤（広島大学）
中村 太戯留（東京工科大学）
坂本 美枝（サイバー大学）
七田 麻美子
杉本 喜孝
半澤 礼之（京都大学）
宮下 伊吉（(株)進研アド）
北村 雅則（名古屋学院大学）
後藤 幸功（サイバー大学）
中島 彰子（大手前大学）
毛利 美穂（大手前大学）
新垣 円（サイバー大学）
遠藤 孝治（サイバー大学）
柵 富雄
（富山インターネット市民塾推進協議会）
須藤 恵美子（大手前大学）
田中 さやか（徳島大学）
大島 聡（横浜国立大学）
小野 邦彦（サイバー大学）
古俣 升雄
谷口 勝一（立命館大学）
平岡 斉士（京都大学）
平山 欣孝（三重県立久居高等学校）
藤田 裕之（三重県立津商業高等学校）
Bovee Nicholas
山岸 芳夫（金沢工業大学）
山根 信二（青山学院大学）
岩瀬 峰代（総合研究大学院大学）

白鳥 義明（城西大学）
石堂 好範（デンソーテクノ株式会社）
中井 章博
（和歌山大学教育学部附属小学校）
周 楊華
宮田 芳郎（株式会社ガラパゴス）
白石 由紀
東 淳一（流通科学大学）
神谷 幸宏（東京農工大学）

■学生会員 55名

村上 友樹
（広島国際大学社会環境科学部）
平松 健
（北陸先端科学技術大学院大学大学院）
青柳 章大
（宮城教育大学大学院）
沖田 栄里（静岡大学大学院）
塚本 崇基（富山大学大学院）
程 琳（東京大学大学院）
磯 太恵子（昭和女子大学大学院）
塚平 尚史（自由学園最高学部）
中川 達矢
（広島国際大学社会環境科学部）
アブリーズ マリヤ（京都大学大学院）
梶原 裕史（立命館大学情報理工学部）
Georgiou Georgios（京都大学大学院）
田中 大地
（広島国際大学社会環境科学部）
今城 和宏（同志社大学大学院）
上野山 莉沙（東京工業大学大学院）
大城 誠
（広島国際大学社会環境科学部）

大道 一輝
（広島国際大学社会環境科学部）
坂口 敏生（上越教育大学大学院）
篠島 祐貴（富山大学大学院）
滝上 俊恵（玉川大学教職大学院）
松本 篤志
（広島国際大学社会環境科学部）
藤原 ひとみ（奈良女子大学大学院）
横部 博和
（広島国際大学社会環境科学部）
佐野 裕（中京大学大学院）
赤木 玲奈（自由学園最高学部）
石橋 嘉一（総合研究大学院大学）
出井 智子（横浜国立大学大学院）
小川 弘（兵庫教育大学大学院）
熊坂 瑤子
（慶應義塾大学環境情報学部）
館澤 昌寛（東京学芸大学教育学部）
田 園園（城西大学大学院）
上西 秀和（東京工業大学大学院）
河合 博一
（東京工業大学社会理工学部）
木村 勤（茨城大学大学院）
小久保 力（大阪大学大学院）
佐渡 健之（広島大学大学院）
Zaorski Spence（大阪大学大学院）
館野 智紀（東京学芸大学教育学部）
津村 英幸（長崎大学大学院）
長瀬 勇輝（関西大学大学院）
中山 晃（創価大学大学院）
西岡 歩（東京学芸大学教育学部）
野口 聡（関西大学大学院）
布袋 賢介（東京工業大学大学院）
宮崎 誠（熊本大学大学院）

柳澤 義彦 (広島大学大学院)
Rivera Ernesto (東京工業大学大学院)
葉 晨林 (関西大学大学院)
高橋 雄一 (聖徳大学大学院)
山路 茜 (東京大学教育学部)
大村 珠加 (関西大学大学院)
山之内 恵美 (上越教育大学大学院)
三島 侑子 (つくば大学大学院)
長谷 海平 (東京藝術大学大学院)
井上 未来 (東京工芸大学芸術学部)

勝本 敦洋 (西宮市立瓦木中学校)
中俣 尚己 (京都外国語大学)
青山 ひとみ (日野市立平山小学校)
石川 育代 (日野市立平山小学校)
魚崎 典子
古宮 キヨ子
(日野市立日野第六小学校)
草野 洋明 (日野市役所)
塩入 広樹 (日野市役所)
関口 佳美
田口 克敏 (日野市役所)
阿部 聡
岩森 正治 (度会町立度会中学校)
寿楽 浩太 (東京大学大学院)

平尻 絵莉子
Avancena Aimee Theresa
(東京工業大学)
下西 弘二
望月 真紀
(株式会社早稲田総研インターナショナル)
谷本 康 (亀山市立亀山西小学校)
内田 歆 (社会福祉法人埼玉福祉会)
三浦 和美
(東北福祉大学子ども科学部)
柳田 明子

■准会員 22名

齋藤 かおる (青山学院大学)

学会日誌

2009年

10月24日(土) 研究会「ICT活用の授業研究と教師教育」(信州大学)
12月19日(土) 研究会「FDの組織化・大学の組織改革」(京都外国語大学)

2010年

2月27日(土)～28日(日) 冬の合宿研究会「教育現場とつくる実践研究のデザイン」
(かんぼの宿 松島)
3月 6日(土) 研究会「教育実践を指向した学習支援システム」(広島大学)
5月15日(土) 研究会「情報モラル教育・ネットいじめ対策」(北教大旭川校)
6月19日(土) 総会・シンポジウム(予定)
9月18日(土)～20日(月) 第26回全国大会(金城学院大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ…………… 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ…………… 研究会事務局 (study-group-core@jset.gr.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ…………… 大会企画委員会 (taikai2009@jset.gr.jp)
- ◆ 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ…………… 企画委員会 (kikaku@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ…………… 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ…………… 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長：清水康敬，担当副会長：永岡慶三，
広報委員長：赤倉貴子，幹事：伊藤剛和，委員：永田智子，皆川 武，宮田 仁
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No. 168

2009年10月15日

発行人 永野和男

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL/FAX：03-5740-9505

E-mail：office@jset.gr.jp

http://www.jset.gr.jp/

郵便振替 00180-2-539055